

2019年度パルシステム東京平和カンパご寄付のご報告

パレスチナ・ガザ地区 ナワール児童館の活動

特定非営利活動法人パレスチナ子どものキャンペーン

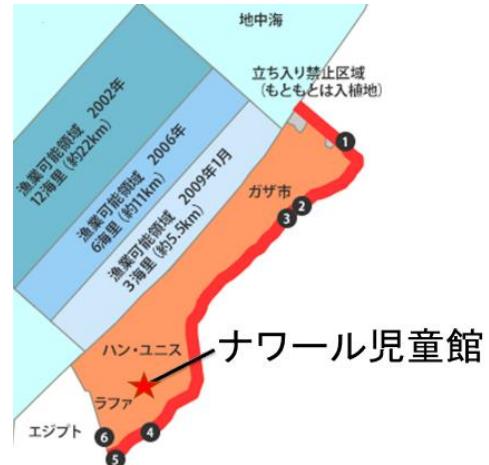
ガザ地区の現状

人口約200万人のガザ地区では10年以上も封鎖状態にあり、約半数の人が仕事を得られず、厳しい生活を強いられている一方、国際的な支援は減少しています。2008年からの6年間にイスラエルによる大規模な軍事攻撃が3回あり、現在も断続的に空爆があるため、人々は不安な中での生活を強いられています。また2018年3月から続く境界付近(地図赤帯部分)での抗議行動では、イスラエル軍との衝突によって累計3万人以上が負傷。様々な要因によりガザに住む子どもの約22,000人が心理的サポートを必要としているといわれています。



子どもと母親の居場所・ナワール児童館での活動

ガザ南部の貧困地域に2006年に開設。週5日、午前と午後の2交代で、約300人の小学生が来館。レクリエーション、工作、音楽、演劇、伝統舞踊、物語作り、図書館活動、コンピュータ、遠足、季節のイベント、スポーツ、補習授業、絵画、映画鑑賞、子ども議会など、遊び・学習・文化活動の機会を提供。



★子ども向けの活動

心理的な安定、学力の向上、表現力やリーダーシップ獲得による自信の回復など、子ども達の成長に大きく貢献しています。

1. 主体性を大切にし、活動の計画や実施を子どもたち中心に進めました。
2. 児童参加型の補習プログラムでは、主体性や学習意欲を伸ばし、生きた知識を学べるようさらに工夫を重ねています。
3. 家族や地域の人を作品展示会に招待し、自信をつけることができました。
4. 障がいの有無に関わらず子ども達が参加できるよう、安全な環境を整えています。

★母親向けの活動

週1日程度、関心のあるテーマについてグループで話し合い、母親同士の交流やストレス発散ができる居場所作りを行っています。必要に応じて心理士やソーシャルワーカーが個別相談の時間をとり、手厚くケアをしています。子どもへの接し方や問題行動への対処、家庭内の防災についてなど、生活に密着した知識やスキルを学ぶことで、母親のエンパワメントにつながっています。また母親が子どもと一緒にレクリエーション活動に参加し、協力することで、お互いのことを理解することができ、家族関係の強化につながっています。



ご支援に感謝いたします

パルシステム東京からいただいた平和カンパは、画材、教育玩具、楽器、書籍、学習教材、スポーツ用品、演劇の道具や衣装、工作などの材料、おやつ、母親ワークショップの講師への謝金、遠足費用、児童館の水光熱費、通信費、地域活動の交通費、現地スタッフの給与などに活用させていただきました。将来パレスチナの社会を担う子どもたちの可能性を育み、子育てに奮闘する母親たちの拠り所となっているナワール児童館を継続的に支えて頂きますようお願いいたします。

COVID-19(新型コロナウイルス)感染拡大の中で

世界中で感染拡大している新型コロナウイルスは、パレスチナでも広がっています。ガザ地区は厳しい封鎖下で人や物の出入りがイスラエル軍によって制限されているため、イスラエルやもう一つのパレスチナ自治区であるヨルダン川西岸ほどの感染者は出ていません。

しかし、ガザは多くの難民キャンプがあり、人口密度が世界でも最も高い場所であり、停電や断水が断続的に続き、予算不足で医療システムが崩壊寸前です。また封鎖により医薬品なども不足しているので、万一感染爆発が起こると、大変なことになります。

パレスチナでは3月末以来学校は休校になり、外出制限も出されています。ナワール児童館でも5月中旬まで閉館し、消毒などを行いました。家に閉じこもっている子どもと家族のために、SNSなどで学習教材を提供したり、家族相談、子どもとの連絡などを続けました。特に家庭で家族みんなで参加できるゲーム教材などは大変に好評です。

4月の終わりからラマダン(断食月)が始まりました。例年、ラマダン中には、お母さんたちの料理コンクールや、児童館でイフタールという日没後の食事会を開催し、子どもたちや家族を招きますが、今年は中止になりました。その代わりに、特に困窮している家族へ食糧支援を行いました。

5月中旬からは、週に20人と人数を限定して、子どもたちが児童館で活動できるようにしています。また、お母さんたちを対象に人数限定でワークショップなども再開しました。



【COVID-19 対策以前の活動の様子】(左)グループで一つの作品作り / (右)お母さんに作品紹介をしている様子